

ろっこの
ひと採

全国高校少林寺拳法
「弁論の部」で日本一

はた ゆず き
幡 柚希さん (17)

物おじせずに堂々と



「先輩たちも取っていたので、絶対優勝しなかった」。3月下旬に香川県で開かれた少林寺拳法の全国高校選抜大会「弁論の部」で日本一に輝いた。過去に6人の優勝者を輩出した「弁論の清真学園」の伝統をつないだ。

全国の舞台に立てるのは、各都道府県代表から書類審査を通過した6人のみ。昨年は県代表止まりに終わったが、今年は狭き門を突破した。選んだテーマは「この時代に私はどう生きるか」。交流サイト(SNS)を見て、自分と他人を比較して悩みを抱えたが、少林寺拳法の教えを知ることによって乗り越えた経験を披露。最後は、小学校の先生になる夢に向かい「自分自身を見失わないで自分らしく成長し続け、他者の支えとなっていく」と訴えた。

発表は、全国から拳士や関係者約1000人が集まった開会式直後に行われた。重圧のかかる一番手で「緊張したが、途中から楽しくなった」。堂々とした語り口で、論旨と表現の2項目で最高点を出した。

少林寺拳法との出会いは中学。部活動紹介で見た先輩の姿に憧れた。「初めて会った人と話すのが得意」と、物おじしない性格で弁論を進められた。原稿をまとめる難しさはあったが、相手に考えを伝えることやりがいを感じた。中学3年の全国大会では3位に入り自信をつけた。同校7人目の優勝者となり「驚きもあったが、うれしかった」と頬を緩める。4月に3年生になり部活動ができるのはあとわずか。「自分が学んだことを後輩に伝えていく」と誓う。鹿嶋市栗生。(藤崎徹)